



世界連邦運動協会武蔵野支部

世界平和の実現を目指し 行政と議会、市民が結束



戦争で犠牲となった武蔵野市の戦死者名簿が納められている「世界連邦平和像」

世界連邦運動協会は、世界の国々がお互いの独立性を保ちながら、世界平和や地球環境など、地球規模の問題を解決するために結束する民主的な「世界連邦政府」の実現に向けて活動を続ける団体です。世界の平和維持には、原爆投下を止められなかった国連だけでは不十分との考えから、第二次大戦後の1946年にルクセンブルクで結成され、武蔵野市は1960年、同協会に加盟。同じ年に世界連邦の建設に賛同する「世界連邦に関する宣言」を武蔵野市議会の全員一致で行っています。

「戦時中、軍需工場だった中島飛行機武蔵製作所があったことから、武蔵野市はたびたび空襲を受け、多くの犠牲者を出しました。戦後の武蔵野市民にとって、平和を願う気持ちはとても強かったのです」と語るのは、世界連邦運動協会武蔵野支部・支部長の榎本重夫さん。現在86歳の榎本さんもまた、小学生の頃に武蔵野市で空襲を体験した1人です。

武蔵野支部では、講演会や戦争体験の継承などを通じて、世界平和に向けた啓

発活動を行ってきましたが、1970年、三鷹駅前に建立された「世界連邦平和像」も武蔵野支部の活動を象徴する存在として知られています。長崎の平和祈念像の作者でもある彫刻家・北村西望さんの手による平和像は、市の補助金と市民の募金などによって完成。台座の中には戦時に亡くなった武蔵野市民の名簿が納められ、平和への願いが込められました。

また毎年、小中学生を対象に平和をテーマにしたポスターと作文を募集し、展覧会も開催。子どもたちが平和や地球環境について考える貴重な機会となっています。

「世界では依然として紛争や貧困、環境破壊など、地球全体で考えるべき問題が山積しています。未来の地球を担う子どもたちに平和について考えるきっかけの一つにしてもらいたい」との思いから、こうした活動を継続しています」と榎本さんは言います。

武蔵野市は1982年に「非核都市宣言」を行い、行政と議会が党派を超えて、核と戦争のない世界を目指す平和事業に取り組んできました。今年是世界連邦運動協会武蔵野支部発足から60年、平和像の建立から50年。節目の年を迎え、これまで以上に、行政と議会、そして市民の力による平和な世界の実現に向けた取り組みに期待が集まります。

世界連邦運動協会武蔵野支部

1960年、武蔵野市が世界連邦運動協会に加盟し、武蔵野支部が発足する。小・中学生を対象にしたポスターと作文の募集・展示、講演会、戦争体験の記録・継承、グリーンパーク遊歩道周辺を歩く平和の道ウォーキングなど、平和をキーワードに超党派で活動を続ける。2020年は武蔵野支部発足60周年にあたり、三鷹駅前の平和像の案内板の新設や平和の道ウォーキング復活などを計画している。



世界連邦運動協会武蔵野支部長の榎本重夫さん



コンクールで武蔵野市長賞を受賞した作品